

## 平成28年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 「自信を持ち前向きに生きる人」、「自立した人」、「社会に貢献できる人」を育成する学校

上記「めざす学校像」を実現し、健全で高潔な社会貢献できる生徒の育成をするために、以下の項目を中心に学校目標を定め、取組みを実施。

- 1 勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成。——学習活動を基本に据え、自信に溢れ前向きに生きる人——
- 2 人とつながり自らを律する力を育成。——他者を思いやり、地域から信頼される強くて優しい人——
- 3 自己を確立し未来を切り開く力を育成。——充実した学校生活を実現して成長し、社会に役立つ人——
- 4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成。

## 2 中期的目標

## 1 勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成→自ら伸びる力の育成とわかる授業の創造

(1) 授業力の向上を図り、「学ぶ楽しさ」を身につけさせ、自ら伸びようとする積極性と前向きに生きる姿勢を育む。

ア 「わかる授業」の実践 基礎学力の定着と応用力を養い、進路獲得につながるステップアップを図る

※学校教育自己診断において、3年後には「学校が楽しい」と答える生徒を90%以上とする。

イ 「相手を選ばない授業力」の獲得 授業に対する教員の意識と意欲の向上を図り、単なる知識の伝達に留まらない授業力向上を図る。

※ICTを活用した授業を奨励し、より考えさせる授業を展開する。

※学校教育自己診断において、3年後には「授業満足度」を70%以上とする。

ウ 「自信や達成感を持たず教育」の構築 勉強に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかり、留年の防止と中退者の減少にむすびつける。

※学業成績による留年生を減少させ、3年後には各学年10名以下とする。

※3年後には、中途退学生を3%以下に減らすとともに、入学してよかったと実感できる学校にする。

(2) キャリア教育の推進

ア 「平野キャリアスタンダード」の推進と改革 「総合的な学習の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。

※現在約85%の進路決定率を可能な限り100%に近づける。また4年制大学への進学者を40名以上とする。

## 2 人とつながり自らを律する力を育成→多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成し、地域から信頼される強くて優しい人間を育成

(1) 学校行事やピオトープに地域の人たちを学校に招き、交流の機会を増やし、他者を認める力や認められる喜びを育てる。

ア 「地域とともに生徒を育てる」 ピオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていく。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。地域から認められることにより自尊感情を高め、生徒の自信の醸成を図る。

イ 「ともに学びともに育つ」教育 「人間は人間関係の中でしか育たない」という理念の下、障がいのある生徒だけでなく、全ての生徒に対し、SCや特別支援教育コーディネーターや学校生活支援カードを有効に活用し、個々の生徒支援に努めるとともに違いを認め合うことをテーマに人権教育を推進する。

(2) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む 韓国大成一高校との交流に加え、様々な国や地域の人たちとの交流を実現する。

※韓国大成一高校との「スタディツアー」を更に発展させ、学びたいこと、旅行行程、交流の在り方について本校独自のプログラムを策定し実施する。

## 3 自己を確立し未来を切り開く力を育成→学校生活の充実と規律ある高校生活を保障し、社会に役立つ人間を育成

(1) 部活動の活性化

ア 「元気の学校づくり」 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。充実した高校生活に部活動が必要であることを、全教員が一致して指導し、部活動の加入率を上げる。放課後に生徒の声が届く学校にする。

※3年後には、部活動の入部率を現在の30%から40%に引き上げる。

(2) 生徒会活動の更なる活性化により、学校行事の充実と生徒の自主活動を推進する。

ア 「来てもらえる学校」「見に行きたい学校」に 地域への公開を原則に本校学校行事を企画し、保護者、地域の方々に来校し喜んでもらえるものを考え、本校生徒の頑張りを見ていただく。地域との結びつきを強化し、地域の中における自分の在り方を考えさせ、自己の確立につなげる。

イ 学校行事で「人を育てる」 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。

※3年後には、90%以上とする。

(3) 規律ある高校生活の実現

ア 「人間力」の育成 生徒理解に努め、厳しく鍛えるとともに暖かく寄り添う生徒指導を推進し、「なぜいけないのか」「どうすればよいのか」を納得させ規律を整える。

※3年後には、懲戒件数を20件以下に、遅刻件数を3000件以下にする。

## 4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成

(1) 教員に自分の学校という意識を持たせ、自ら考え自ら動く教師集団を創造

「頼りにされる校務力」の育成 校内研修とOJTの充実、教員の意識向上を図るとともに若手教員やミドルリーダーの育成につとめる。

(2) 効果的な仕事の実践のための職場環境の再構築

校務や学校運営組織の見直し「スクラップアンドビルド」の実践 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。

以上の中期的目標をベースに、生徒に自信や自己肯定感、達成感を植え付け、生徒の生きる力を育み進学してよかったといえる学校を創り上げる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>＜生徒分析＞</b></p> <p>I. 今年度の傾向</p> <p><b>【概況】</b> 肯定値が8割前後の項目は「成績不振の生徒に対して補習を行い、学力向上につとめている」、「文化祭や体育祭などに積極的に取り組むことができる」、「成績は、テストの得点だけでなく、総合的に評価されている」。学習面と行事面を問う項目での高い評価から、基本的な方針が概ね受け入れられていると実感できる。</p> <p><b>【課題】</b> ほぼ全ての設問で肯定値が過半数を占める。しかし、「図書室の利用」に関しては肯定値が38%（昨年度33%）で、昨年度に引き続き低迷。「学校へ行くのが楽しい」「学校で、授業以外に楽しみにしている活動がある」に対して10%以上の生徒が「まったくあてはまらない」と答えている。学年が進むとともに、この数字は減少するが、充実感が得られるような環境やコンテンツが求められる。</p> <p><b>【私学との比較】</b> 私学全体（大阪）での本年度調査によると「学校では担任の先生以外にも悩みごとや相談ごとを聞いてくれる先生がいる」が61%、本校では65%で、私学全体と比較しても生徒と良好な関係が築けている。</p> <p>II. 昨年度との比較</p> <p><b>【「よくあてはまる」】</b> 「文化祭や体育祭や学年行事などに積極的に取り組むことができる」が8%増加している。それに対して「よくあてはまる」が5%以上減となった項目はない。</p> <p><b>【学年別の傾向】</b> 3年生（35期）の「よくあてはまる」は16項目増加、そのうち4項目で10%以上増加した。3年生の「学校へ行くのが楽しい」では前年比16%アップで特筆に値する。学年移行の中で、先生方の考え方が浸透していくのだと考察できる。</p> <p><b>【対策の反応】</b> 昨年度否定値が40%に達した「学校で地震や火事が起きたときの対応は具体的に知らされている」に関しては否定値を29%に引き下げることができた。反面、具体策を講じなかった「学校の図書室を利用したことがある」については肯定値が4%減少し、図書室離れを止めることができなかった。</p> <p><b>＜保護者分析＞</b> 回答率41%（31%）</p> <p>I. 今年度の傾向</p> <p><b>【概況】</b> 多くの設問で肯定値が7割を超え、肯定値が半数に届かなかった設問はない。特に「PTAの文書もふくめ、学校からの配布物には目を通して見る」では「よくあてはまる」が半数を超え肯定値は9割。保護者が学校の活動を注視していることがわかる。ほとんどの設問で肯定値が7割を超え、本校の教育活動は信頼を得ている。しかし、3つの設問では否定値が4割に至る。「授業参観や文化祭・体育祭など、行事には参加したことがある」、「部活動、生徒会活動は活発である」、「保護者と話をする機会を多く持っている」。これらは学校と直接、接点を持つ項目。その一つに「部活動」がある。この活性化が否定値の割合が高い3項目の改善策につながるのではないかと。</p> <p>II. 昨年度との比較</p> <p><b>【肯定値】</b> 「授業参観や文化祭・体育祭など、行事には参加したことがある」にていて、否定値が多いことで注目したが、肯定値が昨年度49%から60%に大幅向上している。満足できる数字ではないが、引き続き意識が必要。それ以外の設問で経年変化に目立つ項目はない。</p> <p><b>【否定値】</b> 否定値が大幅に増加した項目はない。</p> <p><b>＜教職員分析＞</b> 回答率100%（55%）</p> <p>I. 今年度の傾向</p> <p><b>【概況】</b> 全員がアンケート用紙を提出し、協力しあう雰囲気が本校職員のモチベーションとクオリティの高さを証明している。多くの設問で肯定値が7割を超えている。肯定値が半数に届かなかった設問は「各分掌や各学年間の連携が円滑におこなわれ、有機的に機能している」のみだが、指導体制の根幹を問うものだけに、大変残念な結果である。これを改善するために、来年度、分掌組織を大きく改編する。この改編で、分掌の人数が減少すると捉えるのではなく、実働人員が増加に転じると発想できるか否かが成否のポイントとなる。</p> <p>II. 昨年度との比較</p> <p><b>【肯定値】</b> 昨年度の数字を上回った設問は「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外とも相談することができる」、「興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かな指導をおこなっている」、「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係にもとづいた教育活動がおこなわれている」。特に設問25が12%向上しており、教職員間の相互理解と信頼関係が厚いことがわかる。</p> <p><b>【否定値】</b> 肯定値が15%以上と大きく減少した項目は、「保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている」、「学校協議会等と連携した教育活動がおこなわれている」。これらは、総務部、運営委員、広報Gを中心に担っているが、その活動報告や詳細を教職員に伝える機会が少ないかもしれない。また、「心身の配慮や支援を要する生徒への指導や健康管理について共通理解をはかっている」については、就学支援を受けている生徒とそうでない生徒の差異がはっきりとはできないため、不明確に思われているケースがあるのかもしれない。生徒一人ひとりに寄り添い、目が行き届いているからこそ生じる疑問だと思われる。</p>	<p>＜第1回学校協議会（6/29）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去5年間で、遅刻75%減、欠席35%減は素晴らしいが、地域住民として知らなかった。外部への広報や地域の方へのPRがもっと必要ではないか。生徒の地域での振る舞いが最大のPR。文化祭・体育祭などイベントを通して、学校内に入れるチャンスを増やす。</li> <li>総合・LHRで取り組んできたキャリア教育実践の成果が要因であること以外に学校がよくなった要因（生徒指導では、まず生徒を認めてあげてを優先している。ルールで縛るのではなくて、生徒を理解して支援するスタンス。しんどい子への関わり、テスト前の補習、教員が積極的に関わり、「平野でよかった」という生徒が増えた。上級生まで行き届いたことで、下級生が上級生を見て手本とできる好循環が生まれた。）を大切にさらに発展させていってほしい。</li> <li>クラブ加入率が30～32%程度。指導者の状況は潤沢。平均年齢37.8歳。低迷を打ち破る方法を考え、実践するべき。活躍の場の設定。子どもと接する時間の確保のための工夫。アルバイト調査。新1年生でのクラブ体験期間の工夫。</li> <li>図書室の利用率を上げる仕掛けが必要。</li> </ul> <p>＜第2回学校協議会（10/17）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活実態調査の分析について（1回目の協議会の指摘を受け調査）スマホなどの所有率90%超。使用方法についての啓発が必要。部活動をしている生徒と教員の意識のズレを埋めない限り部活参加率は上がらない。80%が「落ち着いて勉強できる部屋がある」との回答。朝、昼食についての調査結果を見ても、生徒の家庭環境が良好で安心した。</li> <li>ケータイ電話の指導をする中でのSNS上でのいじめ等について、保護者への研修などあったらうれしい。保護者が相談したい場合の窓口があれば有効。（担任以外にも相談できたほうがいい）</li> <li>東北の「ヒマワリの種」支援のようなボランティア活動の充実を。</li> <li>1・2年生の2学期の始まりを早め、8月から授業を実施するなら遅刻・欠席の減少が必要。</li> </ul> <p>＜第3回学校協議会（2/13）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラブ加入率を向上させるための手立ては考えているか？生活困窮の為のアルバイト等は少ないのでは？（クラブに入っていないが、放課後に居残っている生徒がいる。彼らにアプローチしたい。「クラブを楽しむ」ことを教えたい。「(5月の)連休明け」までにどれだけクラブに惹きつけられるかが勝負だと考えている。）</li> <li>2年生の「ユニバーサル視点」の広がり、OJTが成果を挙げている。心がけていることは何か？（「自分が楽しく、いきいき働く」こと。子どもの前でも、職員の前でも。若手教員には「出来るか？」と問わず、「やるか」と問いかける。出来たときには褒め、失敗した時にはフォローし、一緒に悩む。職員の思いは生徒にも伝播する。）</li> <li>個別に配慮が必要な生徒について、外部機関との連携体制は出来ているか？（スクールカウンセラー（SC）は月に1回来校。面談時間を細かく区切る必要が出るほど、生徒や保護者のニーズは高い。追加配当も申請している。）</li> <li>少ない人数での対応は難しい。「チームで」「専門家の力を借りて」対応することが肝要。外部機関との連携をシステム化してほしい。（「生徒サポート室」（教育相談係・支援教育コーディネーター）と学年が情報を共有する流れを作っている。その一方でSCや児童相談所に関する事案は全体で共有しにくいという課題がある。また、今年度新たに、平野区の「青春生活応援事業」としてドーナツトーク（一般社団法人）と連携して居場所事業を行っている。「ドーナツトーク」は、他校で「居場所カフェ」という取組みを行っている。本校では、気になる生徒を先生がピックアップして、図書室などの「居場所」でゆっくり話ができる空間を作っている。生徒からすれば、先生でもないSCでもない人と話せる場所として、教員には話しにくいことも話せたりする例もあった。必要であれば、福祉機関につなぐことも想定される。これからケースの蓄積を行ってほしい。）</li> </ul> <p>学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画について今年度の評価と来年度の計画を資料に沿って説明。それぞれの分掌長が言ったことをまとめてあり、分かりやすい。手法も含めて、綿密に計画を立てていて感心した。</li> <li>3月31日まで修正可能。校長の一方的な押し付けではなくて、率直に意見を言える雰囲気づくりをしてほしい。それが、学校を元気にすることにつながる。</li> <li>キーワードは大学の「入試制度改革」。今の中学2年生から大きく変わる。ペーパーテストよりも面接など、やる気やモチベーションが問われる形態が増え、同時に外部テストの重要性も増してくる。進学希望の生徒だけでなく、「全員に」検定などを受けさせることで、就職も有利に進めることが出来るようになるであろう。また、「行事に取り組む力が将来評価されるようになる」ことを見据えて指導にあたるのが肝要。</li> <li>「観点別評価」は高校でも行っているか？</li> <li>去年英語で先行実施。来年度全教科で実施。</li> <li>教員が、どの観点で評価をつけるのかを明らかにすることに意義がある。生徒にとっては「どういう観点で評価をするのか」という「指針」となる。教員にとっては、子どもの成長の（具体的）イメージとつながっていくため、評価の仕方のレベルアップになる。教頭の指摘はあたって、「ともに学び、ともに育つ」「多文化にふれる」機会を増やすこと、「体験」をもとにした「人との出会い」が、知識だけでは解決できない課題を解決できる能力を育むことになる。先生方が「力を合わせてやっている」のが、生徒にも乗り移り、実績につながっている。「平野へ行きたい」生徒増えた。この3年は実を結んでいるのは、たまたまではない。「どんどん新しいことをやろう」という進取の気鋭も素晴らしい。</li> <li>普通科専門コース設置校として、コースがフラッグシップとなるように取組みたい。成果発表会や、クラブ活動、行事などを通じてスクールアイデンティティの確立を内外へむけて図りたい。今年度、学校訪問を沢山行った。評価の仕方、手法など、今持っている技術を活かしてこれからも学んでいかねばならない。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成</p>	<p>(1) 授業力の向上を図り、「学ぶ楽しさ」を身につけさせ、自ら伸よとする積極性と前向きに生きる姿勢を育む</p>	<p>(1) ア)「わかる授業」の実践 基礎学力の定着と応用力を養い、進路獲得につながるステップアップを図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数展開授業の効果的な展開</li> <li>学習時間の増加をめざす</li> <li>自習会の実施・土曜講習の実施など、放課後や土曜日の有効的な利用（1年次後半から進学講習を実施）</li> <li>学習チューター・進学主担・学年主任・進路主担の連携を強化し成績不振者と成績上位者のそれぞれへの取り組みをトータルデザイン化</li> </ul> <p>イ)「相手を選ばない授業力」の獲得 授業に対する教員の意識と意欲の向上を図り、単なる知識の伝達に留まらない授業力を向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートの活用、教員相互の授業見学</li> <li>授業改善のための校内研修を複数回実施</li> <li>他校との授業交流及び中学校への出前授業の実施。</li> <li>ICTを積極的に活用し、考えさせる授業を展開。</li> </ul> <p>ウ)「自信や達成感を持たず教育」の構築 勉強に向かう姿勢と基礎学力の向上をはかり、留年の防止と中退者の減少にむすびつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時のモジュール学習の定着</li> <li>成績不振者の指名補習・課題の「マスト提出指導」の学年実施</li> <li>漢検・英検などの全員受験の実施</li> </ul>	<p>(1) ア) 自己診断で「学校が楽しい」と答える生徒を70%以上(62%)以下( )内は前年度実績に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業で受講者の2/3(60%)以上の生徒の学力を向上させる</li> <li>進学講習参加者数を各学年30名以上に(80名)</li> <li>アンケートなどの分析により学習時間を把握</li> </ul> <p>イ) 自己診断で「授業満足度」を65%(56%)に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全教員による相互見学の発展</li> <li>「教え方に工夫をしている」を80%(73%)に</li> </ul> <p>ウ) 中退率を4%以下(6%)に、また学業成績による各学年の留年生徒数を10名以下(約15名)にする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>追認指導の合格率・参加率を上げる。</li> </ul>	<p>(1) ア)「学校が楽しい」と答える生徒は全体では、昨年と同様の61%であったが、3年生単独では、前年度比16%もUPしている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年と同様で受講者の60%以上の生徒の学力が向上(○)習熟度別少人数授業は、生徒にも好評で、特に数学の進進クラス、英語の上級クラスで生徒の学力の伸びが著しい。</li> <li>進学講習参加者数1年25/2年15/3年35(○)本年度新規で実施した1、2年生では目標に達しなかったが、3年生は5人増加した。</li> <li>学習時間の正しい把握が出来た。1時間以上学習率が1年4月20% 1年9月以降10% 3年4月12% *学習時間を少しでも増加させる仕組みが必要</li> </ul> <p>学校全体の中で、進学希望者が多くなってきている。また、奨学金制度の変更などもあり、今後さらに増えることが考えられる。</p> <p><b>3学年トータルの進学指導マップの作成</b></p> <p>イ)「授業満足度」60%(○) 「育成支援チーム研修」や「他校スーパーTに学ぶ研修」など外部講師による授業改善研修を実施することができた。数値として表れるのは今少し時間を要するが、相当の成果を挙げていると考えられる。</p> <p>授業アンケートの結果を面談で還元 教員相互授業見学での評価シート利用の回数107回 自教科・他教科をノルマ数行き、見学シートで還元 小中学への出前授業4校実施 他校授業見学は5校、京都塔南、佐野、布施(定) 東百舌鳥、伯陵(福岡)</p> <p>ウ) 成績不振者の指名補習・課題の「マスト提出指導」の、3学年での共通実施。次は、現状に依りての変化が必要。 <b>1年生で、英検の全員受験実施。漢検の学年独自の取り組み。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝のSHRで朝学を導入。検定試験とリンク。</li> <li>「先生は教え方に工夫をしている」71%(△)</li> <li>3月末現在、退学者6人(0.9%) 転学者8人(1.2%)(◎)</li> <li>8月の追認指導の参加率と合格率(◎) 参加率75% → 98% ・合格率38% → 68%</li> </ul>
	<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>(2) ア)「平野キャリアスタンダード」の推進と改革 「総合的な学習の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る(活躍する卒業生や大人へのインタビューの企画・実施)</li> <li>中小企業家同友会との連携。生徒就業意識を育てる。</li> <li>インターンシップや応募前職場見学の実施</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の再構築</li> <li>7月12月の考査後の期間に、有効な進路イベント導入</li> <li>3年間の進路指導のマップ化。 今ある就職指導に進学指導を上乗せする。</li> <li>3年間の進学指導のトータルデザイン化。</li> <li>自習室管理と自習の計画と運営・勉強合宿の企画</li> <li>大学見学や大学施設での自習や講習会の企画</li> <li>学習チューター・学年主任・進路主担・進学主担・就職主担の連携の強化</li> </ul> <p>総合的な学習の時間を中心に、積極的に図書館を活用する方策を考える。</p>	<p>(2) ア) 進路決定率を90%以上(85%)に、学校斡旋による就職率を90%以上(86.5%)にする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1次就職試験決定率80%(73%)に</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>4年制大学への進学者を30名以上(22名)に増やす</li> <li>4年制大学・短大への進学者を50名以上(36名)に増やす</li> </ul> <p>図書館を利用しない生徒を-10%減少に(57%)</p>	<p>(2) ア)「総合的な学習の時間」を活用したキャリア教育は1年間に進んでおり、同友会との連携やインターンシップ等もスムーズに進んでおり、生徒の意識は向上している。 <b>進路決定率が88%(85%)、学校斡旋による就職率が100%(86.5%) 3月末(◎)</b> <b>1次就職試験決定率83%(◎)</b> 中小企業家同友会との連携(○) 生徒の意識向上に確実に結びつき、将来への意欲向上や、目標設定に大きく影響する。そのことが、学習意欲や規範意識の向上につながっている。 12月に教職員の職場見学交流・2月に生徒との校内交流 インターンシップ(2年生22人)や応募前職場見学(3年生115人)の実施(◎) <b>4年制大学 3月末 29名(◎)</b> <b>4大+短大 3月末 44名(◎)</b> 京都産業大・京大外大・神大・摂南大・桃学大・追手門大など合格。公募推薦受験での合格者9名(のべ)(◎) 医療看護系専門学校も合格了。(◎) <b>3学年トータルの進学指導マップの作成</b> <b>進路説明会などの土曜実施の企画</b> <b>大阪城南女子短大と高大連携締結(8月)</b> 自習室の発展的活用計画と試行 大学見学や大学施設での自習や講習会実現に向けての企画 学習チューター・学年主任・進路主担・進学主担・就職主担の連携強化への取り組み 進学に向けての学力UP講習 <b>図書館を利用しない生徒 62%(57%)・・・(△)</b> *大胆な方策を考えないとますます図書室離れが進んでいくと思われる。 ・図書館便り発行・居場所づくり事業の拠点化</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 人とつながり自らを律する力を育成</p>	<p>(1) 地域の人たちを学校に招き、交流する中で、認める力を育成</p> <p>(2) 国際交流の拡大</p>	<p>(1) ア「地域とともに生徒を育てる」</p> <p>ピオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていく。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動の実施 ・近隣小中学校との交流</li> <li>・授業での福祉施設交流 ・老人会などとの地域連携</li> <li>・ひまわりプロジェクト ・幼稚園や地域住民との交流</li> <li>・小中学生との部活動交流 ・地域のフェスタへの参加</li> <li>・地域住民を招いての交流の検討（学校見学やピオトープ交流など）</li> </ul> <p>イ)「ともに学びともに育つ」教育</p> <p>障がいのある生徒だけでなく全ての生徒に対し、個々の生徒支援に努めるとともに違いを認め合うことをテーマに人権教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SC や特別支援教育コーディネーターや学校生活支援カードを有効に活用</li> <li>・相談委員会や生徒のケース会議の実施。その情報の校内の共有。支援方法や体制を確立。</li> <li>・支援学校や自立支援推進校、外部機関との連携を強化、協力を得て支援を実施。</li> </ul> <p>(2)</p> <p><b>「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</b></p> <p>韓国大成一高校との交流に加え、様々な国や地域の人たちとの交流を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大成一高校との交流をさらに発展する。語学・異文化体験研修の色合いをプラス</li> <li>・人間福祉コースの参加など、訪日交流参加者を増やす方策を考える。</li> <li>・訪韓交流のPRや広報につとめ、参加者を増やす。</li> <li>・交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。</li> <li>・大阪府国際化戦略実行委員会の大阪戦略プログラム参加</li> <li>・大阪観光局や国際交流センターへの申し入れなどで、海外からの修学旅行等を受け入れも検討する。</li> <li>・年度にもう1回、別の国際交流のイベントの企画</li> </ul>	<p>(1) ア) 交流参加者・参加生徒全員から(90%)からよかつたとの意見をもらう</p> <p>イ) 課題を抱える生徒が中途退学せずに進級・卒業できるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談委員会開催回数(24)</li> <li>・修学支援会議開催回数(12)</li> <li>・課題を抱える生徒の卒業進級を100%に限りなく近づける。(10/10)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>大成一高校来校時の交流に50名以上(約40名)の生徒が参加できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪韓交流参加者10名(3名)</li> </ul>	<p>(1) ア) 幼稚園、小中学校、施設との交流は例年通り企画。高齢者との交流もできた。地域清掃や挨拶運動等も例年通り行い、地域との連携を強めることが出来た。</p> <p><b>参加者アンケート結果、よかつたの意見92% (○)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動(生徒会、PTA)</li> <li>・ピオトープ学習などでの保育園・幼稚園・小学校との交流(環境科学コース・人間福祉コースの授業)</li> <li>・松原3中フェスタ・商工会議所主催イベント参加(書道部)</li> <li>・平野区「つむぎ祭り」・老人会訪問(軽音部)</li> <li>・小中学生との部活動交流(サッカー部)</li> <li>・授業での福祉施設交流(人間福祉コースの授業) など生徒会活動の更なる活性化</li> <li>・清掃活動、挨拶運動、エコへの取組みなどのボランティア</li> <li>・ひまわりプロジェクトから、松原市の小中学校との交流へ発展</li> </ul> <p>イ) 支援教育コーディネーターや教育相談担当、SC、学習支援員等の尽力、生徒サポート委員会の情報交換や、修学支援会議での検討により、課題を抱える生徒が浮き彫りにされ情報の共有、意識の統一ができています。</p> <p>教育相談委員会開催回数(20)</p> <p>修学支援会議開催回数(10)</p> <p>課題を抱える生徒の卒業進級(7/10) (△)</p> <p>教育センターとの連携事象(17)</p> <p>(2)</p> <p>本校での交流に参加する生徒が大きく増えた。また、訪韓する交流に参加する生徒は4倍に増えた。費用の援助についての調整や、企画・準備を学校全体としては、取り組めていないところに課題は残る。</p> <p><b>大成一高校来校時の交流に50名参加(◎)</b></p> <p>大阪観光局との連携(エコバックや記念品の贈呈)</p> <p>大成一高校と姉妹校連携提携、調印。</p> <p>人間福祉コースの生徒参加5名</p> <p><b>訪韓交流参加者13名(◎)</b></p> <p>大阪府国際化戦略実行委員会の大阪戦略プログラム参加(教員付添い旅費1名分)</p> <p>来年度訪韓プログラムの発展的再検討(英語村への参加)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 自己を確立し未来を切り開く力を育成</p>	<p>(1) 部活動活性化</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化による学校行事の充実と生徒の自主活動の支援</p>	<p>(1) <b>「元氣な学校づくり」</b></p> <p>部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。充実した高校生活に部活動が必要であることを、全教員が一致して指導し、部活動の加入率を上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生へのアプローチの工夫(部活動全入など)</li> <li>・部活動で頑張る生徒や成果の紹介</li> <li>・平野カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施</li> <li>・部活動連絡会やリーダー講習など一体感連帯感の醸成</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア) <b>「来てもらえる学校」「見に行きたい学校」</b>に</p> <p>地域への公開を原則に本校学校行事を企画し、保護者、地域の方々に来校し喜んでもらえるものを考え本校生徒の頑張りを見ていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の学校への関心を高める</li> </ul>	<p>(1) 部活動入部率を40%(35%)に</p> <p>(2)</p> <p>ア) 来校者の90%以上(全員)から賛同の意見をもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭には500名(400名)、文化祭には700名(650名)</li> <li>・学校教育自己診断アンケートの回収率を50%に(30%)</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入部率35%(△)で昨年度と変わらない。新入生へのアプローチの工夫(部活動全入)や具体的な働きかけ時期を大きく変える必要あり。</li> <li>生活実態調査などから、5月中旬(中間テストまで)までが、アルバイト生活との大きな分岐点となることが判明。</li> <li>・GW直前・直後の取り組みを強化し帰属意識を持たせる。</li> <li>・部活動連絡会やリーダー講習など一体感連帯感の醸成</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア)</p> <p>体育祭には481人(+35%) (◎)</p> <p>文化祭には725人(+12%) (◎)</p> <p>保護者分の回収率を50%に(30%)・・・41%(△)</p> <p>「体育祭や文化祭など、学校行事に参加したことがある。」</p> <p>昨年度49%から60%に。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭の開催を1日から2日へ増やす企画を検討</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 自己を確立し未来を切り開く力を育成</p>	<p>(3) 規律ある高校生活の実現</p>	<p>イ) <b>学校行事で「人を育てる」</b> 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら企画・立案・運営できる設定を考え、「達成感・成就感」を体感できるものにする。</li> <li>・学校行事への生徒の取り組みに工夫</li> <li>・球技大会や合唱大会などの新たな全校イベントの企画</li> </ul> <p>(3) ア) <b>「人間力」の育成</b> 厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解に努め、家庭連絡や生徒への声かけを心がける</li> <li>・厳しく鍛えることで、自ら規律を守ることのできる生徒指導を展開</li> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> </ul>	<p>イ) 自己診断で「学校が楽しい」と答える生徒を75%以上(70%弱)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校行事に積極的に参加している」75%(73%)</li> <li>・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」70%(64%)</li> <li>・「文化祭や体育祭や学年行事などに積極的に取り組むことができる」75%(73%)</li> </ul> <p>(3) ア) 自己診断で生徒指導への肯定的な回答を75%以上(72%)に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は家庭への連絡をきめ細かくおこなっている」85%(82%)</li> <li>・懲戒件数を25件(28件)</li> <li>・遅刻件数・欠席件数 -10%(4012回・8387回)</li> </ul>	<p>イ) 「学校が楽しい」61%(△) *3年生が大きく伸びる (○)</p> <p>「学校行事に積極的に参加している」79%(○) *3年生が大きく伸びる (○)</p> <p>「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」70%(○)</p> <p>「文化祭や体育祭や学年行事などに積極的に取り組むことができる」77%(○)</p> <p>新たな全校イベントの企画(△) <b>全校規模での芸術文化鑑賞行事を新設</b> 球技大会や合唱大会などの新たな全校イベントは未実施(3)</p> <p>生徒「生活への指導については納得できる」70%(△) 保護者「生徒指導の方針に共感できる」79%(○)</p> <p><b>生徒指導への肯定的な回答75%以上(72%)に・・・(○)</b> 「連絡をきめ細かくおこなっている」80%(82%)・・・(△)</p> <p><b>遅刻数 3月末 3726件 / 前年度比 -7%</b> <b>欠席数 3月末 8775件 / 前年度比 +4%</b> <b>懲戒件数 3月末 25件 / 前年度比 -9%</b> ・・・(◎)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成</p>	<p>(1) 教員に自分の学校という意識を持たせ、自ら考え自ら動く教師集団を創造</p> <p>(2) 効果的な仕事の実践のための職場環境の再構築</p>	<p>(1) <b>「頼りにされる校務力」の育成</b> 校内研修とOJTの充実、若手教員やミドルリーダーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンターチームによる初任者への研修や支援を行う。</li> <li>・生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修</li> <li>・先進校視察や授業交流の実施</li> <li>・分掌・学年マネジメント表の作成と運用</li> </ul> <p>・提案型の学校運営参加のための、グループワークなどで意見提示ができる機会の設定</p> <p>・経験の少ない教職員の意見交換の場を設定 「どんな学校にしたいのか」「そのために何ができるか、何をしなければならぬか」を主体的に考えていく</p> <p>(2) <b>校務や学校運営組織の見直し(7割継続3割改革)「スクラップアンドビルド」の実践</b> 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来構想委員会」を中心とした機動力のある組織運営</li> <li>・校務分掌の改編</li> <li>・会議の減少化や短縮化への工夫</li> <li>・教員研修の縮小化への工夫</li> <li>・3年先・5年先を見通した校舎内施設の利用方法考察</li> <li>・校時の変更・・・朝の生徒の流れの確立、勤務時間変更</li> <li>・学年生指の担任業務化・廊下当番の廃止</li> <li>・生徒指導部と生徒会部・保健部との有機的な連携</li> <li>・広報活動の充実</li> <li>・教務内規の変更と修正</li> </ul>	<p>(1) 自己診断で「先生の頑張り」への生徒の回答を75%(72%)以上に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンターチーム研修実施回数</li> <li>・教職員研修の実施回数</li> <li>・先進校視察実施回数</li> <li>・生徒対応でのトラブルによる懲戒件数を0(1)に</li> </ul> <p>・学校の教育活動について、教職員でよく話し合っているを90%(83%)に</p> <p>(2) 見直しに向けての、教職員の積極的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしているを85%(75%)に</li> </ul>	<p>(1) <b>メンターチーム研修実施回数 3回(○)</b> <b>教職員研修の実施回数 12回(○)</b> <b>先進校視察実施回数 5回(◎)</b> <b>生徒対応でのトラブルによる 1回(○)</b></p> <p><b>「先生の頑張り」71%(○)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌・学年マネジメント表を作成し、学校経営計画を分掌・教科・学年の計画作成へと個人の自己申告票に反映できるように活用できた。学校協議会にも運用。</li> </ul> <p>「教育活動についてよく話し合っている」79%(83%) *教職員のアンケートの回収率100%(55%)という中で、80%の数字があることが頼もしいところだ。(○)</p> <p><b>校長サテライト研修・・・4回実施</b> 2年目までの教員に実施 →次年度は初任と4年目で実施</p> <p>(2) 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」65%(75%)に・・・(△) *1月に次年度経営計画を発表し、分掌教科学年で共有するが、各部署の総括と時期的に連動していない。これを連動させないといけない。</p> <p><b>校時の変更 → 朝のSHR(○)</b></p> <p><b>生徒指導部と生徒会部・保健部との有機的連携(○)</b> → <b>校務分掌の改編</b> <b>内規の変更と修正 → 11月 終了(○)</b> <b>広報活動の分掌への仕事固定 → 総務広報課の新設(○)</b></p> <p><b>個人提案制度の導入(○)</b> ※「芸術鑑賞行事がしたい」→ 実現 → 達成感</p> <p>校舎内施設の利用方法の考察(3学期)「将来構想委員会」</p> <p>職員会議を月1回に減少 職員会議資料の個人印刷・電子化への工夫 変更教務内規の段階的な運用 教員研修の縮小化への工夫 → 次年度への大きな課題</p> <p><b>広報活動の充実(○)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の意識を高める。校長ブログ(更新240) → 学校遠征会での若手によるプレゼン。</li> <li>・校外への積極的な広報アプローチの実践 → 中学生を文化祭に招待、土曜にオープンキャンパスを実施し中学生による授業見学を実施。</li> </ul>